子どもの気持ちに寄り添う

関連するSDGsの国際目標

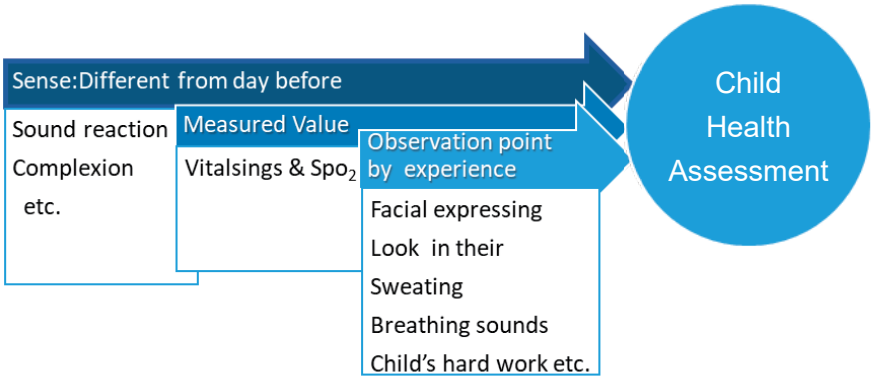
人間看護学部　人間看護学科　　教授　　古株　ひろみ
研究分野：小児看護、家族看護

子どもは、ことばでは十分に自分の気持ちや状況を表現することができません。
そのため、子どもの気持ちや体調に寄り沿った支援や技術が必要と考えています。

■子どもの健康評価の共有化に関する研究

医療者の健康評価に至るプロセスについては経験や体験から感じとるいつもとの違いがまず最初に察知されます。その後、客観的な数値で確認し、体調を維持するための対応が行われます。

誰もが共有できる健康評価指標の開発にむけて、経験や体験から感じ取る視点などについて体系的に可視化することを研究しています。



The 20th East Asian Forum of Nursing Scholars

■処置や入院などで生ずる子どもの心理的不安の軽減にむけた支援への研究

処置や入院などで生ずる子どもの心理的不安の軽減のための支援について研究しています。また、その内容を小児看護教育においても教授し、実践に臨めるよう検討しています。

＜論文＞
•Awareness of Clinical Instructors Regarding Advocating for Children's Rights in Pediatric Nursing Training
(The 24th East Asian Forum of Nursing Scholars 2021年04月)
Rumi Ueno, Hiroko Kokabu, Chiyuki Ryugo, Tomoko Kawabata, Miki Hirata, Misa Suzuki, Ayumi Tamagawa

■小児看護学におけるシミュレーション学習の研究

子どもの状態を観察し、正しい判断やケアを提供できるためには、シミュレーション学習が有効だと考えています。知識・技術に加え、チームワークやコミュニケーション力などの包括的な実践力の修得を目指し、効果的なシミュレーション学習についての研究も開始しています。